三澤勝衛氏より

（涙の手紙）

山本先生

拜啓（中略）過般は私の眼病の件新聞に出で候處，格別の御心配をおかけ申候樣，古畑君より拜承，何とも恐縮の外御座無候．實は早速委細申上度存居候處，遂今日にいたり，御申譯御座無候．眼は，過般上京，須田博士の御診察を願候處，白內障との事に御座候．（中略）

只今の處では，只明暗だけしかわかり申さず候．さて，かく相成候ては殘つた右眼を極力大切にいたし度，就いては過去十四年來の太陽觀測をこゝに斷念いたし度く決心仕候次第に御座候．過般先生の日本學術協會に御發表相成候御論文を拜讀いたし候ても，「せめて自分の生命のある限りは」とも存候へ共，チユーリヒとの比較には今迄のものにて或は幾分は御役に立つ事と存じ，それに昨今多數の觀測者も續出の狀況に候間，この三十一日にて御許を願ひたく存居候．しかし先生の御研究の御都合も伺はず，性急の事をいたす樣にて洵に恐縮に存居候．尤も，自分としても今こゝで止める事は如何にも名殘惜しくも候へ共，萬一右眼の失明とも相成候へば，恐ろしい不自由を感じ申べく候間，殘つた一方の眼の爲めに斷念いたし度決心いたし候次第に御座候．

今後は，この六七年來次第に沒頭する樣に相成候地理學で御奉公申度く存居候．然し今日の私の地理學の基礎を作つてくれ候ものは，何時も何時も申上候通り，天文學の力に御座候．この意味からは今後地理學への進展も或る意味に於て，私に於ける限り，天文學の延長に御座候．何分，相變らず御高援御高敎相仰ぎ申上度御願申上候．

眼の手術は私が8度と云ふ相當の近眼であり，從つて左眼を手術しても右眼の調節困難の爲め，やがて右眼が又白內障となり，手術するまでは用をなさぬとの事に候間，只今の處見合せ居候．それでも萬一をたのみ手術以外の方法を，あれやこれやと試み居申候．御休神願上奉り候．

末筆乍ら奥様によろしく御願申上候. 右御詫旁々近況申上候.　　敬具

十二月二十三日　　三　澤　勝　衛

☆　★　☆　★　☆

山本附記　三澤氏は我が國に於ける太陽黑點觀測の開拓者であつて，又今日と雖も最も熟練，且つ忠實な觀測者である．此の人を，今，病氣のためとは言へ，學界から失ふことは誠に譬へやうも無く，遺憾である．過去十四ケ年の間，寒暑も晴曇も超越して，專心に黑點の陰顯を見守つた功蹟は，偉大と言はねばならない．氏の觀測に刺激されて最近には國內に四五十名の新觀測者が現はれて來たが，其のうちの果して幾%が三澤氏の如き忍耐と熱心とを以つて，信賴に値する學的成果を擧げ得るだろうか!! 深き感慨無きを得ない．

三澤氏が太陽黑點の觀測を始められたのは大正十年(1921年)であつた．其の年の春の頃から上諏訪中學校の73糎望遠鏡によつて黑點觀測の練習を始められ，可なり長く仕事に慣れた後，同年十月から，毎月報告を，極めて几帳面に京都へ寄越されるやうになつた．其れから十有五年，昨1934年の末日に至るまで，此の貴重な觀測記錄は，「ブレテン」か，又は「天界」に載せられて，太陽や地球物理關係のあらゆる研究者を喜ばせたのであつた．之れが無ければ，遠くスキス國のチウリヒ大學から送られる報告を，年に僅か三四度，それも郵信のため更に遲れて入手する仕末，之れでは，とても毎日毎時の變動常なき宇宙現象の臨機の研究資料に不充分なのであつたから，三澤氏の眞に「生きた」材料は貴いものだつた.——今後，吾々は此の標準値を失つて，淋しみを感じること實に甚だしい．西村眞琴博士其の他の有志家たちが何とかして此の偉業の後繼者と後援者を獲んものと，今奔走してゐられる．成功の日の速からんことを祈る．(1935年一月3日)